

平成30年度

# 第1回 認知症地域支援体制推進 全国合同セミナー（1日目）

～本人と家族が地域でよりよく生きていくことができる体制を築くために～

2018年 7月 2日

認知症介護研究・研修東京センター  
（進行:研究部長 永田 久美子）



# ようこそ！ 全国合同セミナーへ



吉祥寺・井之頭公園

認知症になっても  
住み慣れた地域で、よりよく生きていけるように。  
北海道から沖縄まで、すべての市区町村で。



# 平成30年度第1回合同セミナー参加者概要

平成30年6月28日時点

立場	参加自治体数	参加人数
都道府県	11	14人
市区町村 (地域包括支援センター、事業者等含む)	144 * 33都道府県から	235人
厚労省 地方厚生局	-	1人
合計	-	250人

\*「参加者一覧(都道府県)」参照

\*「1日目グループ一覧」参照

# 認知症地域支援体制推進 全国合同セミナーの目的

全国の自治体が、新オレンジプランに基づく各自治体としての認知症施策を円滑に企画・運営し、地元で暮らす認知症の人が、初期から最期までよりよく暮らし続けていくことを支える地域支援体制づくりを着実・持続発展的に進めていくことを促進する。

## この合同セミナーで

全国各地の  
取組を参考に  
施策担当者の  
役割とポイント  
を確認する

全国の担当者との  
情報・意見交換を通じ  
自地域の今後の  
あり方・補強策等を  
具体的に検討する

国施策の  
・方向性、  
・最新情報  
を知る。

## 自地域で

- \* 情報共有
- \* 対話・討議  
方向性確認  
具体策補強
- \* 自地域にあった  
効果的取組みの  
推進強化・加速

全国の担当者同士のネットワーキング

# めざす姿の実現にむけて取組みを着実に進める：市区町村-都道府県-国が重層的に

本人が、初期から最期まで、意思を尊重されて、地域でよりよく暮らし続ける



## 一人ひとりの生活・地域・支援の最前線

市 区 町 村

固有の風土・文化・社会資源を最大限に活かしながら  
持続発展的な支援体制を築く

都 道 府 県

市区町村の施策・取組みを推進・環境整備・バックアップ

国：厚生労働省、関係省庁

認知症施策推進総合戦略(新オレンジプラン)  
都道府県・市区町村の施策・取組を推進・環境整備・バックアップ

# 1. 国の認知症施策の方向性と展開

厚生労働省老健局総務課  
認知症施策推進室 井上 宏 室長補佐



2. 新オレンジプランを活かして各自治体として  
認知症施策を着実に進めていくために：  
今の時期の焦点は何か

認知症介護研究・研修東京センター  
(研究部長:永田 久美子)

# 今、2018年7月



認知症施策の  
担当者・関係者

- ・年々、やること(メニュー)が増える一方・・・
- ・やることが広がって全体がみえない・・・
- ・やるための人手も、時間も、コストも足りない
- ・仕事は、認知症のこと以外にもたくさん！
- ・とりあえず、事業をこなさなくては・・・



急がば回れ！ 焦らずに・・・

今は、今後の施策/事業をどう進めるのか、  
その方向づけの重要な時期(好機)！

- \* 今年度の事業の方向づけ
- \* 来年度事業計画/予算の方向づけ
- \* 第7期の事業(支援)計画3年間の方向づけ
- \* 2025年～に向けた方向づけ

担当者/関係者だからこそ  
できること(焦点)は

**\* 方向づけ！**

地域の多種多様な資源や  
時間・お金を有効に活かす  
ための舵取りを

# 今、2018年7月

## 【問い】

- ① 施策担当者/関係者として、認知症施策を、どのような方向性で進めていますか？
- ② 施策担当者/関係者として、認知症の本人や家族、住民や医療・介護等の専門職等に、方向性を明確に示せていますか？



## 【答え】 各自で…

①

②

2018年7月、現在は・・・

**\* 認知症施策の方向性の大きな過渡期**

＜これからの時代を見据えた新しい方向づけを！＞



**施策担当者/関係者が新しい方向性を  
明確に示せるかどうかで、これからの  
地域のあり方、そして認知症になって  
からの人生行路が大きく異なる！**

# <これからの時代を見据えた新しい方向づけを>



## 1. イメージの転換: 絶望から希望へ

\* 自分の内なる偏見を払拭し、希望の結集軸をつくる

## 2. 視点の転換: 支える側の視点から本人視点重視へ

\* 地元の本人の声を聴き、本人視点で考え、動く

## 3. アプローチの転換: 問題対処から「よりよく生きる」支え合いへ

\* 問題を後追いして支援提供でなく、「本人がよりよく生きる」を共に創る

## 4. 主体の転換: 行政主体から、(本人含め)地域が主体へ

\* 行政が決め「ご協力願う」でなく、地域の人たちが決めて一緒に創る

## 5. ベースの転換: 事業ベースから本人中心の地域ベース(統合)へ

\* 事業ありきでなく、地域に根差して脱領域で人・事業をつなぐ(統合)

→地域包括ケアシステムと一体的に推進

地元の当事者、地域に役立つ認知症施策を着実に進めている自治体が重視している方向性

# <これからの時代を見据えた新しい方向づけを>



## 1. イメージの転換: 絶望から希望へ

\* 自分の内なる偏見を払拭し、希望の結集軸をつくる

## 2. 視点の転換: 支える側の視点から本人視点重視へ

\* 地元の本人の声を聴き、本人視点で考え、動く

## 3. アプローチの転換: 問題対処から「よりよく生きる」支え合いへ

\* 問題を後追いで支援提供でなく、「本人がよりよく生きる」を共に創る

## 4. 主体の転換: 行政主体から、(本人含め)地域が主体へ

\* 行政が決め「ご協力願う」でなく、地域の人たちが決めて一緒に創る

## 5. ベースの転換: 事業ベースから本人中心の地域ベース(統合)へ

\* 事業ありきでなく、地域に根差して脱領域で人・事業をつなぐ(統合)

→地域包括ケアシステムと一体的に推進



こうあったらいいよね～。

あらためて見てみると・・・

自治体の施策担当者/関係者としては  
すでに温めてきたごく基本的な方向性・・・。

さらに、あらためて見てみると・・・

これらの方向性は、各自治体ですでに掲げられているのでは？

\* 新オレンジプランを基にして(根拠にして)。

### <これからの時代を見据えた新しい方向づけを>

#### 1. イメージの転換: 絶望から希望へ

\* 自分の内なる偏見を払拭し、希望の結集軸をつくる



#### 2. 視点の転換: 支える側の視点から本人視点重視へ

\* 地元の本人の声を聴き、本人視点で考え、動く

#### 3. アプローチの転換: 問題対処から「よりよく生きる」支え合いへ

\* 問題を後追いで支援提供でなく、「本人がよりよく生きる」を共に創る

#### 4. 主体の転換: 行政主体から、(本人含め)地域が主体へ

\* 行政が決める「ご協力願う」でなく、地域の人たちが決めて一緒に創る

#### 5. ベースの転換: 事業ベースから本人中心の地域ベース(統合)へ

\* 事業ありきでなく、地域に根差して脱領域で人・事業をつなぐ(統合)

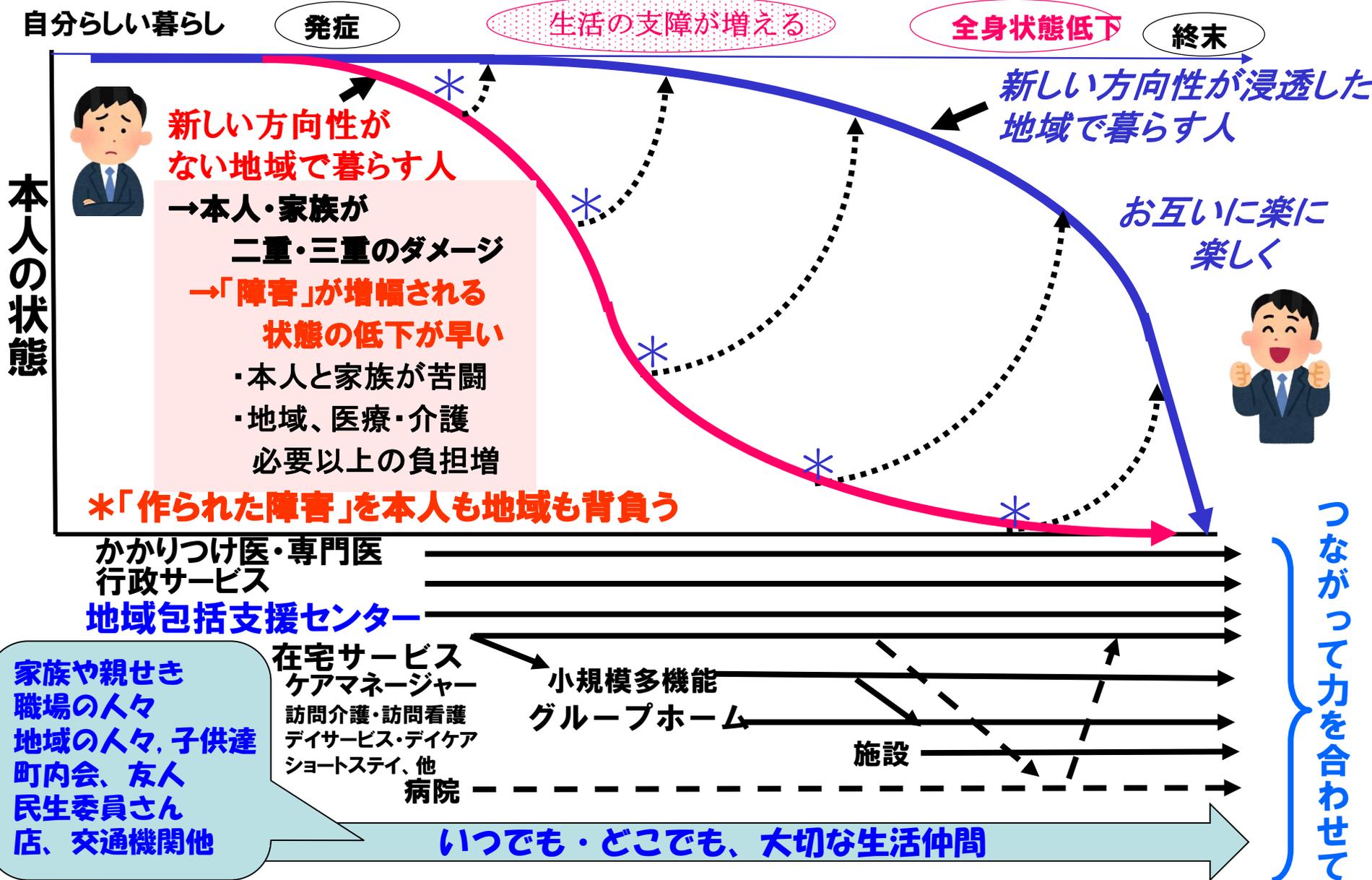
→ 地域包括ケアシステムと一体的に推進



先ほど、井上氏が

新オレンジプラン

# 「新しい方向性」の有無で、認知症になってからの人生行路が大きく異なる！



**方向性が掲げられ、地域を舞台に暮らしやすい環境が作られると  
認知症があっても支えられる一方ではなく、地域の支え手として活躍！  
良循環：本人が生き生き⇔家族も生き生き⇔地域も生き生き**



**若者の服の繕いもの**



**ご近所の掃き掃除  
町内会から表彰状  
→家族もとても喜ぶ！**



**保育園で保育士さんの  
助っ人として働く**



**洗車の仕事  
刺激され若者も奮起**



**子供を守ろう  
防犯パトロール中**

**認知症が進んだり、体が弱った人・施設で暮らす人も  
地域を舞台に暮らす環境が生まれると  
「これぞ自分という姿」でいい日々を重ね、生きることが出来る。**



**一歩、戸外に出ることで  
五感の快刺激に包まれて  
安定(体調も改善)。  
一緒にリフレッシュ。**



**なじみの店へ。  
思い出や言葉、  
その人らしい所作が  
湧き上がる。**



**地域の人・子供たちと。  
つながって一緒に。**

**人は、認知症になって以降も、  
ものすごく大きなポテンシャルをもっている！**

# <これからの時代を見据えた新しい方向づけを>



## 1. イメージの転換: 絶望から希望へ

\* 自分の内なる偏見を払拭し、希望の結集軸をつくる

## 2. 視点の転換: 支える側の視点から本人視点重視へ

\* 地元の本人の声を聴き、本人視点で考え、動く

## 3. アプローチの転換: 問題対処から「よりよく生きる」支え合いへ

\* 問題を後追いして支援提供でなく、「本人がよりよく生きる」を共に創る

## 4. 主体の転換: 行政主体から、(本人含め)地域が主体へ

\* 行政が決め「ご協力願う」でなく、地域の人たちが決めて一緒に創る

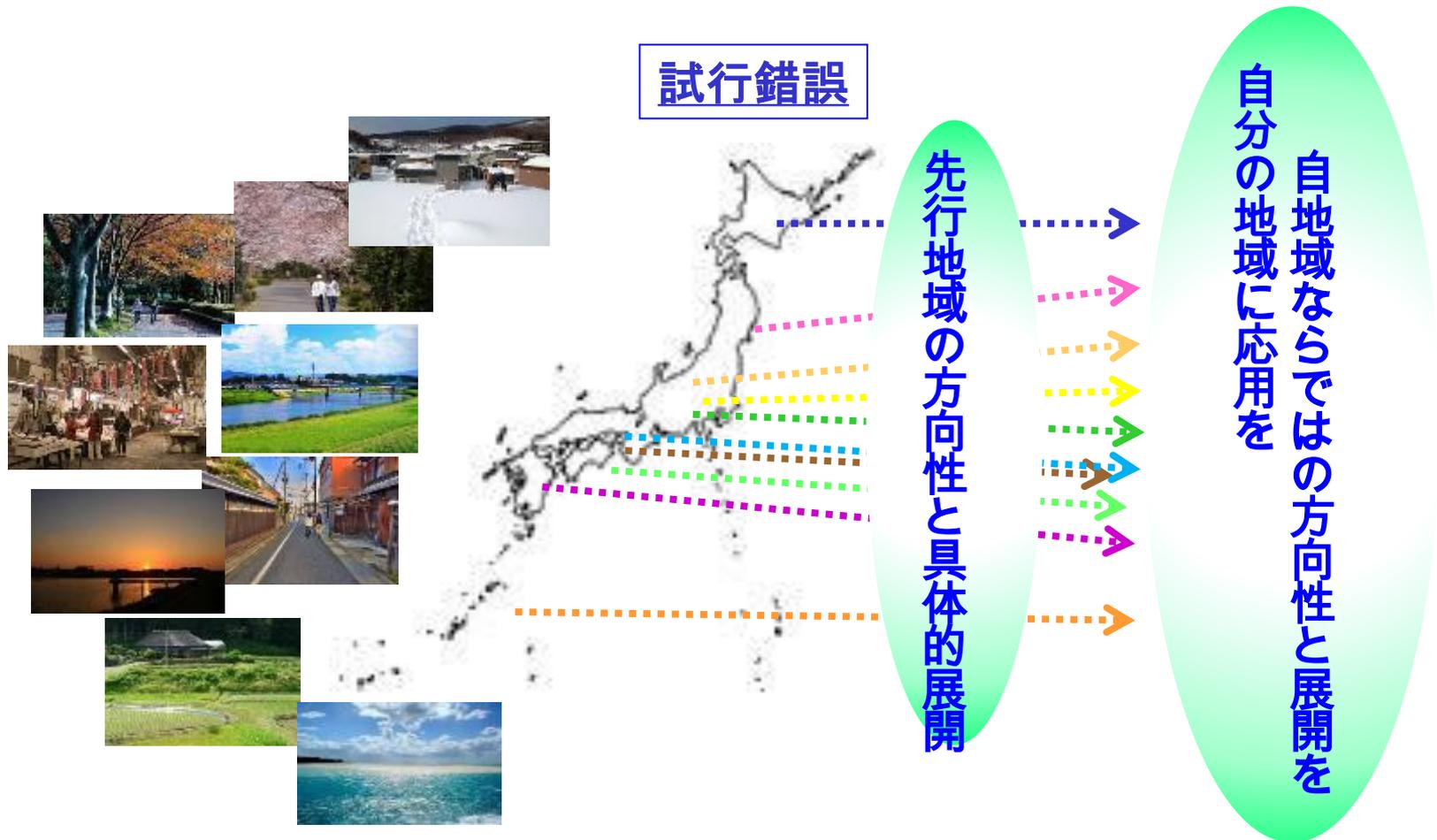
## 5. ベースの転換: 事業ベースから本人中心の地域ベース(統合)へ

\* 事業ありきでなく、地域に根差して脱領域で人・事業をつなぐ(統合)

→地域包括ケアシステムと一体的に推進

施策担当者/関係者 : 個々の事業に走る前に方向性をしっかりと

# 今の時期に 全国各地の取組み（方向性とその具体策）を参考に 自地域の方向性と展開策の見直し・補強を



### 3. 他の自治体の取組からヒントを得よう：その1

#### 報告1：認知症ケアパスを活かして共につくる 認知症地域包括ケア

長崎県諫早市健康福祉部高齢介護課

主任保健師 岩本 節子さん

#### 報告2：「地域共生社会」の実現に向けて たつの市の取組み

～横断的に対応する組織へ～

兵庫県たつの市健康福祉部

参事兼地域包括支援課長 森下 美佳 さん

認知症地域支援推進員 糺 裕子 さん

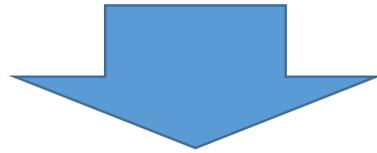
## 各地域の報告

○新オレンジプランを基にしながら、  
わが自治体としてどう構想し、企画を立て、何に注力しているのか

○事業を実際に展開する上で

\* 担当者の役割として、何を大事にしているか

\* 立場を活かしてやるべきこと、できることは何か



報告を聞いて

①参考にした点・気づきは…

②自地域の取組みに活かしたい点は…

「ここは、大事」、「ここを地元にも伝えたい」という点を  
マークしながら報告を聴こう！

## 4. わが地域の取組みの今とこれから:

報告を活かして自地域の取組みを考える

# 1) まずは個人ワーク

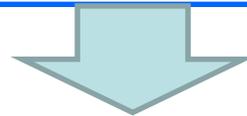
報告をもとに、情報や気づきをメモしよう

ワークシートの一番左の「個人ワーク」の縦欄

①参考になったこと・気づきは…

・諫早市の報告に関して

・たつの市の報告に関して



②自地域で、特に活かしたいことは…

## 2) 他地域の参加者と話し合おう：グループワーク

ワークシートの縦欄2～6列目：地域名・メンバー名等

\*グループメンバー：「1日目グループ一覧」を参照

メンバーの自治体の人口、高齢化率

まずは、簡単に自己紹介を

- ・地域名(都道府県・市区町村)
- ・お名前
- ・立場：所属、職種等
- ・「わがまち自慢」を一言、どうぞ！

★時間内に、全員が発言できるように…。

## 2) 他地域の参加者と話し合おう： グループワーク

ワークシート1日目用

### (1) 情報交換

順番に、個人ワークで考えたこと、地域の状況を伝え合おう。

- ①参考になったこと・気づきは…
- ②自地域で特に活かしたいこと…
- ③自地域で特に注力していること…  
工夫・成果・課題等

### (3) 討 議

- ④自分の立場を活かして、やってみたいことは…

★この機会に地域を見つめ直し、今後に向けて視界を広げよう！

自分の立場だからこそ、やれることがある！

★地元に戻ってから「やること」の手がかりを具体的につかもう

地元を持ち帰れるように、メモしっかり残そう

# ～ 情 報 交 換 会 ～

## ○報告地域の関係者と直接会って、話しあおう！

- ・ 具体的なことを質問しよう。
- ・ 自地域に役立てたい内容・資料等の詳しい説明をきこう。
- ・ 担当者同士ならではの、悩み、アイデアを話しあおう。

## ○参加者同士、話しあおう。つながろう！

- ・ 今日の感想、気づいた点、深めたい点
- ・ お互いの地域の紹介、具体的な情報交換
- ・ 今後もやりとりできるために  
**名刺交換、資料等の交換を**

☆顔をあわせた今日だからこそこのやりとりを！

グループで話し合いながら言い足りなかったことが  
きっとあると思います。

- わが地域のいいところに気づいた！  
取組みや工夫をもっと伝えたい！
- こんなことをもっと知りたい！

ワークシート(1日目)の裏面に  
どうぞ、ご自由に、お書きください。  
\*箇条書きで

- ◆皆さんの声を、明日のセミナーに反映させていただきます。
- ◆ワークシートを椅子の上に置いてお帰り下さい。  
ご協力をお願いします。  
→ワークシートは、明日の朝、返却いたします。

# ～ 情 報 交 換 会 ～

**この後、どうぞ、この場で！**

## ○報告地域の人たちと直接会って！

- ・ 具体的なことを質問しよう。
- ・ 自地域に役立てたい内容・資料等の詳しい説明をきこう。
- ・ 悩み、アイデアを話しあおう。

## ○参加者同士、話しあおう。つながろう！

- ・ 今日の感想、気づいた点、深めたい点
- ・ お互いの地域の紹介、具体的な情報交換
- ・ 今後もやりとりできるために  
**名刺交換、顔つき等、自由に！**

**☆顔をあわせた今日だからこそ、つながろう！**

平成30年度

# 第1回 認知症地域支援体制推進 全国合同セミナー（2日目）

～本人と家族が地域でよりよく生きていくことができる体制を築くために～

2018年 7月 3日

認知症介護研究・研修東京センター  
（進行：研究部長 永田 久美子）



## ～本日の進め方～

今日は、同じ地域/比較的近い地域の人たちと一緒に、

昨日の情報共有・話しあい

⇒報告3:他地域の取組報告を聴く

⇒サプライズトーク(本人)を聴く

⇒話しあい⇒自地域の方向性の確認・取組の補強策の具体化

情報を「重荷」にしないで

発想を広げる

「こんなことが、できるんだ・・・！」

「(まねして)やってみたい」

地元に戻って、お互いが、楽に楽しくなる種探しを。

⇒ワークシートを活かそう！

大事な点を、シートに残して持ち帰ろう！



のびのびと

## 5. 1日目の情報や知見をもちより、話し合おう ～他地域情報を最大限活かしかあおう～

## グループワーク

\*昨日の他地域情報をもとに、視野とアイデアを広げよう

○まずは自己紹介  
地域、所属、立場等

1)昨日の情報共有  
他地域の取組みの中で  
自地域に活かしたい点  
\*アイデアや工夫は

討 議

2)注力すべき点の確認

①自地域の課題は・・・  
先を焦らずに  
何が課題なのか、  
この機会に掘り下げよう

③自地域で今の時期、  
注力すべき点は何か  
そのためにできることは

⇒グループの仲間を大事に。  
立場や職種を超えて  
一人ひとりのアイデアや気づきをよく聞こう。

## 6. 他の自治体の取組からヒントを得よう ～その2～

## 報告3:和歌山県有田市

近隣市町、病院・医師も一緒に、本人とともにつくる  
地域の支え合い ～本人ミーティングの取り組みから～

和歌山県有田市市民福祉部高齢福祉課 松尾 圭さん  
和歌山県有田市民病院 道場 浩之さん

# 7. サプライズ・トーク

# 認知症の私が体験していること、願っていること



福田 人志さん(長崎県佐世保市在住)  
壺行の会  
日本認知症本人ワーキンググループ

中倉 美智子 パートナー

**8. 今、やるべきこと、できることはこれだ！  
アイデアを出し合おう**

**～わが自治体/地域の課題をクリアしていくために～**

## 1)個人ワーク

午前中の情報をもとに考えてみよう

- 有田市の報告を聞いて
- サプライズトークを聴いて

**\*今日の気づきやアイデアを、新鮮にメモしておこう**

## 2) グループワーク

- 個人ワークで考えたことの共有
- 昨日からここまでの情報や気づきを振り返り、やるべきこと、できることのアイディアを出し合おう

\* 地元で実行に移していくために、もっと知りたいことは・・・



**これから……  
本人(自分)が、自分の地域でどう暮らしていけるか**

## 9. 今年度、そして来年度の取組みをどう展開するか

## 1)個人ワーク

2日間の情報・手がかりを、整理しておこう

①今年度中に取組みたいこと/補強したいこと

②来年度、取組みたいこと  
/そのために計画/予算化につなげたいこと

\*ふだんやっていたこと、やろうとしていたことに、

この2日間の情報・アイデアをもとに、ひとつでもプラスをしよう

\*いつものメンバーだけでなく、地域の多様な資源とともに

# <これからの時代を見据えた新しい方向づけを>



## 1. イメージの転換: 絶望から希望へ

\* 自分の内なる偏見を払拭し、希望の結集軸をつくる

## 2. 視点の転換: 支える側の視点から本人視点重視へ

\* 地元の本人の声を聴き、本人視点で考え、動く

## 3. アプローチの転換: 問題対処から「よりよく生きる」支え合いへ

\* 問題を後追いして支援提供でなく、「本人がよりよく生きる」を共に創る

## 4. 主体の転換: 行政主体から、(本人含め)地域が主体へ

\* 行政が決め「ご協力願う」でなく、地域の人たちが決めて一緒に創る

## 5. ベースの転換: 事業ベースから本人中心の地域ベース(統合)へ

\* 事業ありきでなく、地域に根差して脱領域で人・事業をつなぐ(統合)

→地域包括ケアシステムと一体的に推進

施策担当者/関係者 : 個々の事業に走る前に方向性をしっかりと

## 2) グループワーク

①今年度中に取組みたいこと/補強したいこと

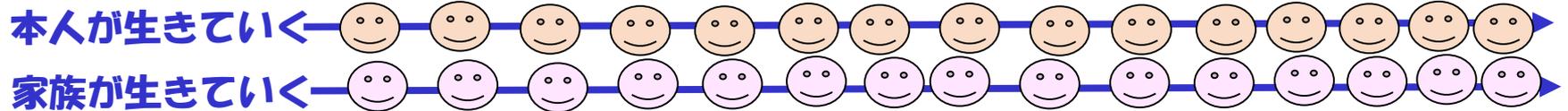
②来年度、取組みたいこと  
/そのために計画/予算化につなげたいこと

**\* 互いをアイデアを活かし合いながら、具体化しよう  
何を、誰と、どのように、等**

# 全体討議

# わがまちで暮らす人の視点にたって：地域支援体制づくりを

本人が辿る経過



本人・家族の視点にたって、必要なこと、必要なあり方を（再）確認する。  
**地域を活かし**、本人・家族が力を発揮してよりよく暮らせる支援体制を築く

## ◎ 地域の潜在力（人、組織、風土、文化等）

・自治体/地域がこれまで育て、蓄積してきた力・ネットワーク

\*それぞれの自治体ごとに、これまでの認知症施策の歩みがある

・認知症の枠以外での地域にある多様な資源・ネットワーク・事業

## ☆今の時期（7月）

- ・今年度事業が始動（の準備）
  - ・来年度以降の計画作り・予算取り
- ⇒今後の舵取りの方向性・基盤を固める時期

こなすことを焦らずに・・・

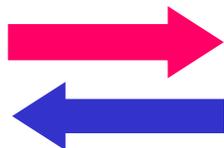
- ・方向性・方針、戦略の確認
- ・関係者との話しあい、合意形成を丁寧に

今日は、そのきっかけ。

ワークで得た情報・アイデアを  
地元を持ち帰って、関係者に伝えよう。  
（少人数でも）話しあう機会をつくろう。

# わが町に戻って、一歩(半歩)踏み出そう。 ひたすら、つながり、つなぐ

一人ひとりの資源や  
ネットワーク



地域の資源・ネットワーク

Aさんの資源

Bさんの資源

Cさんの資源

Dさんの資源

本人と家族を支える資源を見つけよう、つなげよう、創り出そう

地域にある認知症の人の支援の資源・ネットワーク

地域をつながり

地域の多様なネットワーク

(子育て・防災・自殺対策、町活性化・趣味グループ、同級生等)

# 東京センターよりお知らせ

全国各地で取組む人たちと出会い、情報・知恵・工夫を交換しあおう！  
職場内外の人に参加を進め、理解者を増やそう

## 認知症地域支援体制推進全国合同セミナー

第2回 10月4日（木）～5日（金） 東京センター

第3回 1月18日（金） 有楽町朝日ホール

＊申込みは、市町村⇒都道府県を通じて、東京センターへ



## 行方不明を防ぎ、安心して一人歩きを楽しめるまちづくり 全国フォーラム

11月2日（金） 有楽町朝日ホール

＊都道府県を通じて、ご案内（9月上旬予定）

東京センターホームページ:DCネット セミナー、フォーラム等の資料

2日間、本当にお疲れさまでした！

今回のセミナーをひとつのきっかけにして  
あなたの地元で、

めざしたい地域の姿にむけて

あなたが（小さな）アクションをおこしてください。  
伝える、話しあう、できることから一緒に。

これからも

全国の他の地域で悩みながらも前に進んでいる  
仲間とつながり続けてください。

また、お会いできるのを楽しみに！